

千秀だより

横浜市立千秀小学校

10月号

平成30年(2018)10月 1日



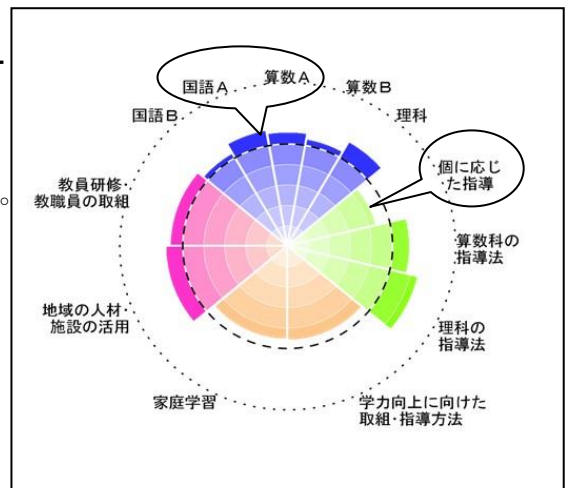
前期終了・後期のスタート

校長 市川 幸 男

校庭を吹き抜ける爽やかな風が、少しずつ色づいてきた葉を揺らし、秋の到来を感じる季節となりました。先日、日の落ちた校庭を歩いていると、コウロギやキリギリスの鳴き声があちらこちらから耳に届いてきました。しばらく立ち止まって耳を澄ましているとウマオイやマツムシ、の音色も届いてまいります。秋の到来とともに、この地の自然の豊かさを感じざるを得ませんでした。こうした豊かさを当たり前享受し育つ子どもたちだからこそ、素直で伸び伸びとした子どもらしい子どもになるのだと一人で納得していました。

話は変わりますが、本年度も4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果が出ました。このテストは6年生が受けたテストですが、本校で6年間学習した成果を見るということで、本校の進めてきた教育活動の評価であり、1年から5年生も同様の学力をもつものと考えられます。ここでは全体像のみのご紹介となりますが、詳しいことは近日中に学校ホームページに掲載いたします。そちらをご参照ください。

本校児童の学習の状況は、全国平均(グラフの---線)よりも高い正答率を示しており、学んだことがしっかりと習得されていることがわかります。特に国語・算数のA問題・理科では、高い結果を残せています。A問題は学習の基盤となる知識・理解・技能の力に関する問題で構成されていることから、本校児童は学んだことはしっかりと身に付け、自分の知識として見えてきます。反面、その知識や技能を活用していく力については、まだまだ育成を進めていかなければならないと捉えています。ここ数年、主体的で深い学びを進める授業改善を図り、それなりに成果に結びついているのですが、まだまだ子どもたちの伸びしろはたくさんあると捉えています。今後もさらに授業の改善を進めていきたいと考えています。



また、職員の多くが感じている「個に応じた指導」の積極的導入については、「算数少人数指導」や個別に取り出している特別授業など進めておりますが、そういった特設した指導にとどまらず、学級の中での日常的な指導において、個に応じた指導を展開し、少しでも子どもたちの「分かる」を提供したいという教職員の気持ちの表れと受け止めております。

児童の意識等から見ると、自己を有用であり大切なものにとらえる自尊感情の低さが気になります。自分の持つ「よさ」や「可能性」を信じ、前向きに生活を重ねていく。そんな姿勢の育成のためにも、今まで以上に、子どもが発見、達成したこと、取り組んだことの良さを認め、ともに喜んでいくように心がけたいと存じます。そしてそれは学校職員だけでなく保護者・地域の方にも理解・協力を呼びかけ、子どもの生活のすべてが、成長の喜びに包まれるように取り組んでいかなければならないと思っております。

さて10月、今年度の振り返り点となりました。終業式には子どもたち自身が前期を振り返り、自己後期への取り組みを展望する機会もあります。すべての子が元気に振り返り、前を見据えて再スタートが切れるようにしていきたいと存じます。これまで本校の経営にご協力をいただいた保護者や地域の皆様にあらためて御礼申し上げますとともに、後期もよろしくお願いたします。